

# 技あり

聴力、発声に難がある人向けの機器を製造するシマダ製作所(富岡市妙義町行沢、嶋田馨社長)。脳こうそくや交通事故で脳の言語中枢に支障が出て「失語症」になった人が会



嶋田社長

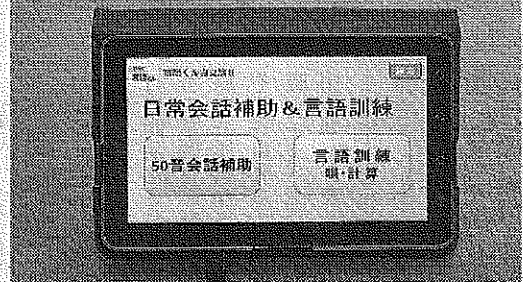
【一言】小さい会社だが大手が参入しない分野で生きられるよう、体の不自由な人の視点に立つてものづくりをする。

## 会話補助訓練装置

シマダ製作所(富岡市妙義町行沢)

話すのを助けたり、回復のために訓練するソフトウェアを開発、小型端末機にインストールして製品化している。

「言語くん」と名付けられている製品は、液晶画面にタッチしながら操作。画面には動物の絵が映し出され、触れると「ウシ」などと音で教えてくれる。



①小型端末機にソフトウェアをインストールして製品化する②独自開発したソフトウェアは液晶画面にタッチして操作する

を生かして改良した。設立は1970年。

自動車関連の制御機器を製造してきたが、96年に聴力が低下した人向けの遠聴支援機「みみ太郎」を開発した。耳の形を研究し、耳の遠いお年寄りかなるべく肉声に近い音で聞こえるよう工夫した。02年に県の「1社1技術」の認定を受けた。

# 画面に触れ音で教える

20日発売の新バージョンでいる。手のひらされる切実な声の結晶と、新しい製品もいえる。新バージョンはさらに専門家や、利用者からの聞き取り

IIは右半身が不自由になる症状に対処するため左手で操作しやす

くしたり、カラオケ機能が搭載して「荒城の月」や「黒田節」といった高齢者がなじみやすい唱歌50曲を盛り込

### 工夫しました

失語症は仮名は理解できない人がいる主に①理解し、利き手でない左手しか動かない人もいます。文章の作成や再生、四則計算を練習する機能が取り入れ、使いやすくなりました。

05年から社長を務める嶋田社長は「みみ太郎」と言語くんの2本柱で取り組んでいきたい」と力を込める。